

# 未来づくり懇談会（矢板五区）会議録

日 時：平成28年11月15日（火）

19：00～20：40

場 所：矢板五区自治公民館

出席者：市長、教育長、総務課長

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○中心市街地活性化について

・資料に基づき、人口推計等について説明。

5 意見交換

Q1 市体育館のカーテンや壁などの劣化がひどい。建て替えないならリフォームが必要では。

A1 市体育館はS42年に建築された建物。矢板市の公共施設は、ほとんどが劣化している。市民の皆さんの声を聴き、公共施設の管理計画、再配置を考えなくてはならない。

Q2 「暮らし」のびのび定住促進補助事業の補助対象を45歳から50歳に拡大できないか。

A2 定住促進補助事業は若い世代が定住することを目的としている。若い人は貯蓄や収入が少なく家を建てるのが大変なので応援している。

平成30年4月より補助金額を拡充

用地購入 20万円(10万円増)

市内業者を元請とする新築 10万円(5万円増)

特定地域加算(矢板駅西地区) 20万円(新設)

新築住宅に太陽光発電設備を設置 最大10万円(新設)

※検討の結果、補助対象者の拡大（年齢要件変更等）は行わない。

Q 3 空き家が多くなっている。貸したいという方もいるので借りたい人がいれどと思う。

A 3 空き地、空き家の利活用については、3ヶ月に1回、宅建業協会の相談窓口を行っている。今後、空き家バンクの活用を含め連携を取っていくことが必要。

平成 29 年 6 月	空き家バンク実施
平成 29 年 8 月～12 月	現況調査結果等に基づく空き家の実態調査（詳細調査）を実施
平成 30 年 3 月	空家条例制定
平成 30 年度	空家計画策定予定

Q 4 フットボールセンターを作ると人口が増えるのか。

A 4 フットボールセンターが定住人口の増加には繋がらないと思うが、交流人口を増加するには良い施設だと思う。サッカーの練習以外にも、スポーツツーリズム、健康づくり、生きがいくくり、防災拠点になると考えている。

Q 5 道の駅前のバイパス沿線の開発をどうしていくのか。

A 5 矢板那須線バイパスの沿線開発については、農振農用地のため簡単に農振除外や農地転用ができない。

平成 29 年 9 月	矢板都市計画区域における土地利用方針を策定。 矢板駅西の新市街地エリアについては、優良農地との調和を図りながら、適切な土地利用を促していく。
平成 30 年 4 月	「暮らしのびのび定住補助制度」の拡充。 矢板駅西地区と矢板那須線バイパス周辺を含む新市街地エリアの住宅取得について「特定地域加算」を追加。

Q 6 市内の土地家屋調査士が色々な情報を持っているので、協力して地籍調査を進めてはどうか。

A 6 中心市街地活性化のためには公図混乱を解消しなければならないと思う。平成 29 年度は地籍調査班の職員を増員し、調査区の箇所数も増やし予算も増やす。

地籍調査は公図を基に現地を調査するので、公図が無い地域や現状と公図の状況がかけ離れている地域では、地籍調査を行うことが困難である。

Q 6 矢板駅西口の送迎車が多いため、開発してほしい。

A 6 矢板駅西口整備の必要性は感じている。今後検討していく。